

## 「あたたかい<sup>まなざし</sup>眼差し」

キルギスの学校を卒業する時、私は、外国の文化を学んだり、旅行したり、外国に住んで、経験を積み重ねたいと思いトルコに行きました。トルコではホテルの仕事をしながら、トルコの文化を学び、新しい友達もできました。仕事では、リーダーの役割や責任について学ぶことが出来ました。そして、ある時、チームの中からリーダーに選ばれることになりました。こうしたトルコでの経験は、私の成長につながりました。



3年ほど前、日本語と日本文化を学ぶため日本に来ました。日本語の専門学校に通いながら、トルコでの経験を活かしてホテルでアルバイトをしていましたが、コロナの影響で閉店となってしまいました。そんな時、経験はありませんでしたが、特別養護老人ホームでアルバイトを始めることになりました。

アルバイトでは、職員の高齢者に対するあたたかい眼差し、あたたかい態度や振る舞いを見て、子供の頃を思い出しました。私が子供の頃は、障がい者や高齢者は介護が必要で、一人で外出することすら難しいと考えられ、障がい者や高齢者に対する周りの人たちの態度は冷たかった。私は、そのような態度に心から怒っていたが、口に出すことは出来なかった。しかし、いつか周りの人たちの冷たい態度を変えたいと思うようになり、障がい者や高齢者への関わる機会を持つためボランティア活動に参加したりしていました。

子供の頃に経験した冷たい態度と日本で経験したあたたかい態度、日本で介護の仕事をしたきっかけで、「職員にあたたかい眼差しの秘密を知りたい」「チームに入ってそれを手に入れたい」と思うようになりました。そして、介護の仕事についてもっと学びたいと考えるようになり、アルバイトから職員になって目的を目指すことにしました。

介護という言葉は、食事や入浴、排泄の介護をするという意味で良く使われます。しかし、私は介護の仕事はそれだけではなく、人のそばに寄り添って、一緒に明るく楽しい一日を過ごすことだと思います。私の笑顔で、私の支援で誰かが楽しい毎日を過ごせたら、それだけで私もうれしい。疲れることもあります。その時に、ご入居者のあたたかい眼差しが私に向けて「ありがとう」と言ってもらえるだけで疲れがなくなります。

ある日、疲れていた上に気分も良くなかった時、あるご入居者をお手洗いに案内し、排泄支援をしました。対応後にその方が私を見て、「ありがとう、あなたのような息子が欲しいな」と笑顔で仰いました。その時のわたしのうれしさは、言葉では伝えられないほどでした。疲れが無くなり、気分がとても上がりました。

介護の仕事は楽しいです。チームはみんなやさしいし私を助けてくれます。キルギスの両親は、日本で介護の仕事をしている私のことを信頼し応援してくれています。だから、これからもこの仕事を頑張りたいと思います。